

九州の身近なデータを  
ワンポイント解説する  
コーナーです。

# DATA in 九州

今月の注目データ

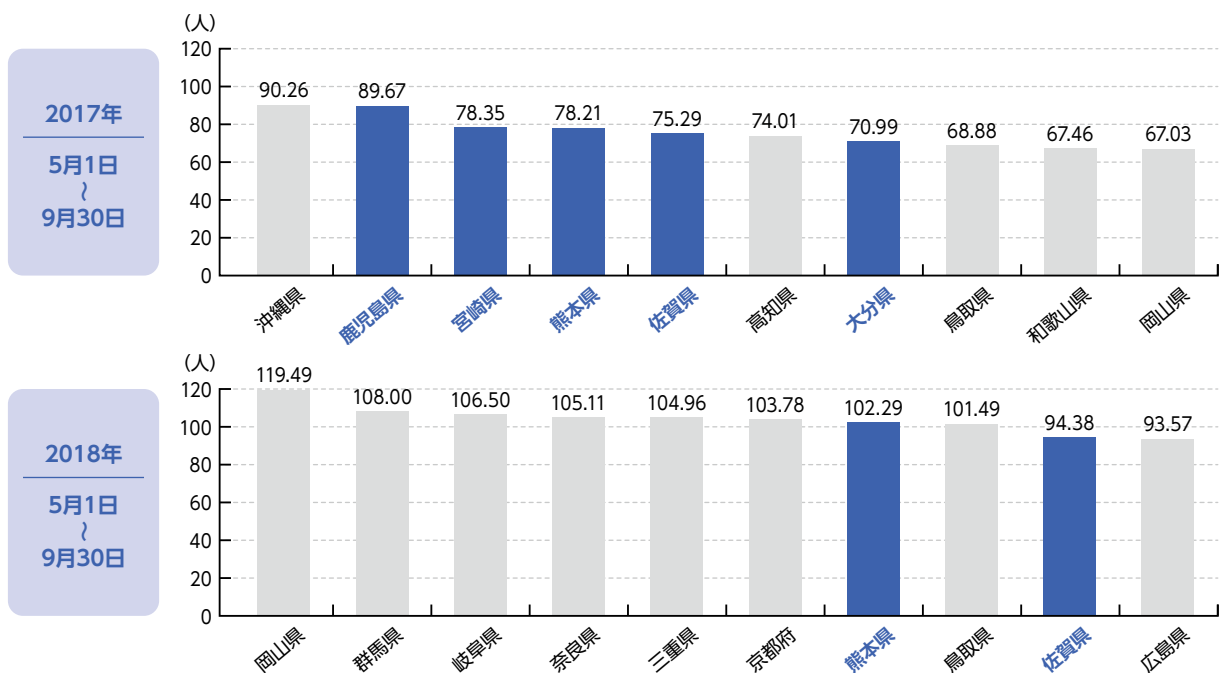
## 熱中症による救急搬送人員数

日本の各地で記録的猛暑となり、新聞紙上を熱中症の記事がにぎわっています。そこで都道府県別に、昨年（2018年）の熱中症による救急搬送人員数（人口10万人当たり）を見てみると、全国では岡山県（119.49人）が最も多く、九州では熊本県（102.29人）、佐賀県（94.38人）が多くなっています。

上位7県中、5県を九州の県が占めていた一昨年（2017年）と比較すると、九州各県は順位を下げたものの、長崎県（51.0%増）や福岡県（38.2%増）など、鹿児島県（0.3%減）を除く九州の全県が前年から増加しており、引き続き注意が必要です。

炎天下での運動会の予行練習などにおいて集団で搬送されるケースが多く見受けられますが、救急搬送される熱中症患者は、年齢別にみると高齢者が最も多く、発生場所は住居内が最も多いとされています。今年は蒸し暑い夏になりそうとの予想もあり、自宅や職場では無理せずにエアコンで温度調整し、こまめな水分補給とバランスのよい食事での体調を整えましょう。

都道府県別人口10万人当たりの熱中症による救急搬送人員数



出所：消防庁「熱中症による救急搬送状況」を基にFFG ビジネスコンサルティング作成